

□5月12日礼拝説教(短縮版)「渴いている人は誰でも」ヨハネ7:32～39 隅野徹牧師

39節では、「人の心の中で起こる、その生きた水が湧き出る変化」は聖霊によっておこるのだ！と教えられています。旧約時代、聖霊は「預言者」など特定の人に、しかも一時的にしか与えられませんでした。しかし、新しい時代がくると、つまり救い主が来られると「約束された聖霊は、豊かに注がれるのだ」と預言者たちは約束しました。その言葉どおり、イエス・キリストの十字架と復活、昇天を通して、聖霊はイエスを救い主として信じるすべての人に注がれるようになったのです。つまり38節でイエスが大声で叫ばれた「人の渴きを根本から癒す変化」は、いま私たちは受けることができるようになってきているのだ、ということが39節で教えられています。

自分の罪を認め、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れることで聖霊を受ける、そのことで私たちは「イエス・キリストを内に宿して生きる者」となります。そうすることで生ける水の源であるイエス・キリストからの水が湧きあがるようにして、私たちは、内側から新しく造りかえられるのです。そればかりではありません。その私たちの中からも、生きた水が川となって流れ出るようになり、この世にあって「潤された園」、「水の涸れない泉」として用いられる。イザヤの預言をもとにして行われた「仮庵の祭りが」が目指していた「本当の潤い、魂の渴きの癒し」が、私たち一人ひとりを通して「もたらされる」ということをイエスは命がけで教えようとされている…そのように私は受け取りました。

本当に「心に潤いのない」今の世の中だと感じます。そして、それはここに集っている一人ひとりにも言えるのではないのでしょうか。まずは、自分の心の中が「渴いている」ことを認めて、素直な心でイエス・キリストの前に出ましょう。キリストを救い主として信じ、「自分中心の思い」を捨てるなら、そこに聖霊が宿り、少しずつ「心が潤う」のです。そして、キリストによって心から湧き出る水は、自分を潤すだけでなく、周囲にいる「苦しみ、悩む人」の心をも潤すために神に用いられると信じます。(終)